



学校だより “ 行きたい学校・帰りたい家・住みたい町 ”

# 上小岩



令和6年11月27日

NO.8

江戸川区立上小岩小学校

校長 宮本 知司

## 年の瀬の「断捨離」～「教育活動アンケート」と3本のケヤキ～

校長 宮本 知司

先日、副校長が『教育活動に関するアンケート』(全校の保護者に依頼するもの)の修正案を手に、とても遠慮がちに校長室へと入ってきました。2年前に私が作成したものを修正したいとの旨でしたが、私は即座に了承しました。副校長への信頼があったことは自明のことですが、それ以上に「保護者の皆さんが答えやすい、実態に合ったものに変えてくれるに違いない」と思ったからです。同じ日、学校近くのお宅の大きな3本のケヤキの木が姿を消しました。春の新緑、夏の大きな木陰と楽しませていただいていた場所ただけに残念な思いも強くしましたが、秋の山のような落ち葉の掃除など、その管理の大変さも思っていました。大学で歴史学を専攻したこともあり、私は歴史のある古いものについては、その価値を大いに尊重する考えをもっています。“温故知新”“不易と流行”の思いで、「これまでの先人の努力とその思いや願いを大切に、その基盤の上に新たな形を作っていこう」と、教職の中でも努めてきました。

私たちの学校教育は、昭和の敗戦を境として内容も方法も大変革がされ、国の人口増加や経済成長の流れに合わせてどんどんと大きく、そして盛んになっていきました。「学校の運動会は町の大きなイベントとしてみんなで盛り上がろう」という姿などは、その象徴的なものでした。(初任で千葉県富津の漁師町の健康学園に勤めていた際には、大漁旗がぐるりと囲む中で、校庭のあちらこちらで酒盛りをしながら子供たちを応援する牧歌的な光景も目の当たりにしました。)しかし今、人口の減少、世界的な気候の変動や経済の低迷をはじめとした混沌とした状況の中、これまでの学校の姿とは大きく変わっていかざるを得ない(変えていくべき)ことが続いています。冒頭のアンケートとケヤキの木のこと一つ一つの例ですが、「変えずにいくかどうか」を一つ一つ立ち止まって考えているところです。私の中の判断の基準は「今、無理や無駄がないか」「将来、困らないか」の2つです。暮れの12月は物の片付けの「断捨離」を行う時期ですが、日常の中で「何となくいつもやっていたこと」を改めて「やる必要があるかな」と見直してみることも大事かもしれません。



明日から始まる「かみっ子芸術祭」は、昭和の時代から連綿と続けられていた「音楽会」「学芸会」「展覧会」を見直し、新しい形で再編したものです。初めてのことでいくつも課題は出てくることと思いますが、それを受けてまた、次年度の実施に向けた修正を行ってまいります。子供たちの製作や練習の姿、それを後押しする教職員の姿からは、すでに「大成功」が見え隠れしますが、どうか楽しみにしてご来校ください。

◇「学校だより」「学年だより」などの発行物について、使用するイラストを減らします。

(これまでフリーとして使用してきたものにも著作権が関係するものがあることが分かりました。紙面の構成や文章の読みやすさにも関係することから、今後の対策を考えています。)

◇上述の『教育活動に関するアンケート』ですが、18の質問項目の最後に自由記述の欄もあります。

日頃お気付きのことや学校行事などへのご意見もどうぞお寄せください。なお、今年度の本校は区の指定を受けて「魅力ある学校づくり」について日々の指導を工夫しています。

(学級会を通して子供たちの自主性を伸ばす、話し合い活動によって子供たち同士の間関係をよくするなどの取組みを行っています)

「毎日学校に行くことを楽しみにしている」「友達の話をお家でもよくする」など学校では見えにくいお子さんの変化などがありましたら、お伝えいただくと職員の励みとなります。よろしく願いいたします。

◀12月の全校道徳▶  
『勤労・公共の精神』  
働くことの大切さを知り  
進んでみんなのために  
働く。